

# 主体的に学習を進め、地理的な見方を育てる授業実践 — ICT の活用と個別支援の充実を通して —

県立衣台高等学校 大竹 生真

## 1 研究のねらい

### (1) 生徒の実態と課題

研究対象の学級の特徴として、指示されたことには的確に取り組むことができる一方で、創造的な問いに対して自分の考えを広げたり、協働的な学習の場面で主体的に関わったりする点には課題が見られる。課題への取組も、与えられた量をこなすことにとどまり、地理的な見方を広げたり、複数の事象を関連付けて考えたりするなど、学びを質的に深めようとする姿勢は十分とは言えない。また、生徒間の学習の進み方には差があり、個別支援が必要である。

### (2) ねらい

生徒の実態と課題を踏まえ、以下のねらいをもって単元計画および実践を行った。

- ① 個別の学習活動を基本とし、その過程において、段階的に対話の機会や、探究的な学習の場面を設定する。
- ② 授業者が生徒一人一人の学習状況に応じた個別支援を行うことを重視する。
- ③ 単元の始まりと終わりで生徒が学習の深まりを実感できるようにする。

### (3) 手だて

(2)のねらいを実現するため、具体的に以下の手だてを講じた。

- ① 単元の始まりと終わりに、グループ学習の機会を設け、ICTを活用し、生徒間でレポートを共有できるようにする。また、協働的な学びを促す問いをつくる。
- ② ICTを活用したレポート作成を授業の軸とし、生徒の一人一人の学習状況に応じた個別支援を行う。
- ③ 活動の始まりと終わりで同じ国について調べ、地理的な見方を働かせて国や地域を多面的に見ることができたかを確認する。

## 2 研究の実際

### (1) 単元指導計画

科目名	地理総合	学年・類型	3年・文系理系	単位数	2	
単元名	生活文化の多様性 この単元は、「B 国際理解と国際協力」の「(1) 生活文化の多様性と国際理解」に該当する。					
単元の評価規準						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
世界の人々の生活文化の特色について、自然環境や社会的条件との関わりに着目して理解している。		世界の人々の生活文化について、地域の特徴や自然・社会的条件との関係に着目し、地理的な見方を働かせて考察し、表現している。		地理的な見方を働かせて、世界の人々の生活文化の学習に主体的に取り組み、学習の振り返りを通して新たな視点を見だし、主体的に追究しようとしている。		
次	授業のねらい・学習活動			重点項目 ※1		評価方法
				知	思	
1	ねらい「世界の地域を調べ、学習の見通しを立てる」					● ワークシート(レ

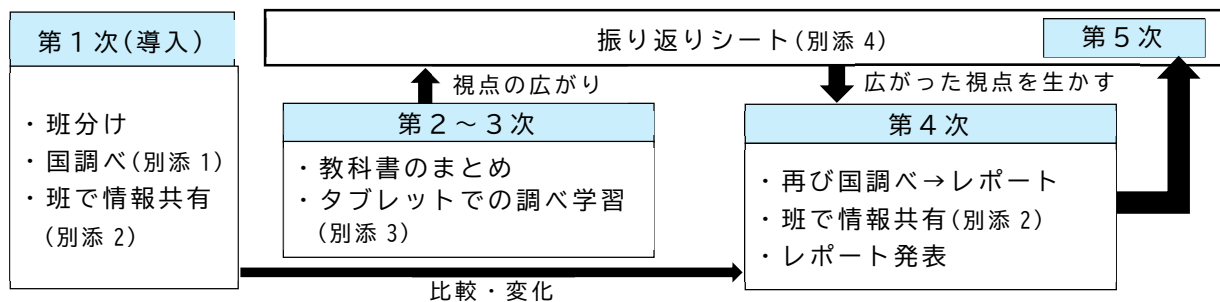
	① 割り当てられた国について調べてまとめ、グループで簡単に報告する。				ポート) の記述
2	ねらい「気候の特徴と人々の生活の結び付きを理解する」	●	●		ワークシート(レポート) の記述
	② 雨温図の見方、世界の気候区分を理解する ③～⑥ 気候区分ごとの植生と生活の結び付きを調べ、まとめる。				
3	ねらい「言語・宗教・歴史・産業と人々の生活・文化の結び付きを理解する」	●	●		ワークシート(レポート) の記述
	⑦～⑨ 言語・宗教・歴史・産業と生活・文化の結び付きを調べ、まとめる。				
4	ねらい「地理的な見方・考え方を働かせ、地域についてまとめる」			○	○
	⑩～⑫ 割り当てられた国について、地形・気候・文化・産業などの視点から重要視点を選び、まとめ直す。				
	⑬～⑭ 地域ごとにレポートを集め説明し合い、追加情報をまとめる。				
	⑮～⑯ 発表を行い、他者発表から地域に対する理解を深める。				
5	ねらい「活動を振り返る」			●	振り返りシート
	⑰ 最初のレポートと比べて自身の成長を振り返る。				
	定期考査	○	○		定期考査

※1 指導に生かす評価には「●」、評定に生かす評価には「○」

(2) 第4次の評価基準 (ルーブリック)

	A	B	C
思考・判断・表現	場所・自然などの地理的な要素と人々の生活を複数結び付け、まとめることができる。	場所・自然などの地理的な要素と人々の生活を一つ結び付け、まとめることができる。	場所・自然などの地理的な要素と人々の生活を結び付け、まとめることができない。
主体的に学習に取り組む態度	自身のレポートから足りない視点を見つけ、次の課題への取組方を具体的に示している。	自身のレポートから足りない視点を見つけている。	自身のレポートから足りない視点を見つけない。

(3) 実践と成果

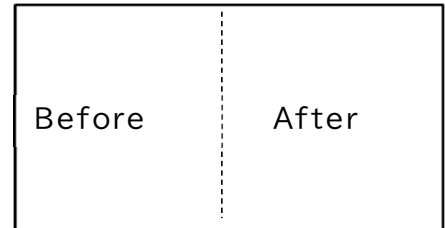


上記のモデル図は、単元指導計画を表現したものである。図中の「別添1」から「別添4」は各次の授業で活用したワークシートを示す。

## ア 第1次について

第1次では地域ごとに班を分け、班の中で生徒は自分の担当国を決め、ワークシートA（別添1）を活用し調べ学習を行った。生徒たちの中に元々ある国や地域の情報やイメージを共有し、その内容の不足を自覚しつつ第4次に向かうための活動である。グループ学習で活用するワークシートB（別添2）は第1次と第4次が比較しやすいように構成した。

ワークシート(B)  
班で1枚



## イ 第2次と第3次の活動について

第2次と第3次では、生徒はレポートの作成を行った。生徒のレポート作成は、Teamsの課題配信を利用し、パワーポイントで作成したワークシートを各自で取り組んだ。生徒のレポート例は、別添3の示す通りである。テーマは気候・言語・宗教・歴史・産業とし、各テーマが終了するとワークシートD（別添4）に、「活動01：世界の国々について調べてみよう」の担当国を記入した。

### 【資料1 レポート】

第2次、第3次内でのレポート作成の際、資料1中のQ4のような問いをつくり、他者と情報共有する場面を設けた。授業者は主に生徒へ個別支援を行い、時折Teamsで編集途中のファイルを開覧しながら全体の進捗状況や、個別の進み具合を確認した。

チャレンジ	
< 知識のまとめ >	
Q1. 乾燥帯全体の特徴は？ 場所や気候の特徴をシンプルに！	降水量が少ないため、乾燥に強い作物を育てている
Q2. 砂漠気候と、ステップ気候のちがいをまとめると？ 雨温図を参考に！	砂漠気候ではほとんど雨は降らないが、ステップ気候では7月に少し雨が降る
< 知識を深める準備 >	
Q3. 学習して疑問に思ったことは？	どうやって住居ごと移動しているのか？
Q4. ほかの人の疑問でなるほどと思ったことは？ or ほかの人の選んだ風景の感想は？	衣替えはするの？（気温が変わらないから）

実際の生徒の取組を観察すると、レポート作成の序盤にあたる第2次

（気候）の前半では進みが遅かったが、慣れてきた第3次では全員が効率的に作成していた。授業中は分からない点を他者に聞いたり、情報共有する時間で、自ら学習を進める姿が見られた。

資料1によると、生徒は、レポート作成を有意なものにできており、関連する疑問を出し（資料1中のQ3）、他者と共有する（資料1中のQ4）ところまで至っている。

一方でQ3やQ4で「寒そう（亜寒帯・寒帯）」「喉がかわきそう（乾燥帯）」などと書くだけで、質的な深まりに至らなかった生徒も多かった。

## ウ 第4次の活動について

第4次では、第1次と同じグループで集まり、同じ国について調べ直した。この際、地形、気候、言語などさまざまな視点で国を調べた後に、「地形→産業」、「歴史→言語」など複数の視点のつながりを軸に、深くまとめるように指示を行った。また、ある程度まとめの方針が定まったところで班内の情報共有を行い、第1次でも活用したワークシートB（別添2）に取り組んだ。その後、班員のレポートはClassPadというクラウドサービスを使って同じ作業エリアに集められ、地域全体に関する追加情報を書き込んで完成とした（次頁資料2）。

【資料2 ClassPad での共有】

**東アジアの特徴（鉱山資源）**

- 東アジアは鉱物資源も豊富で、石炭、鉄鉱石、タンガステン、マンガン、水銀、アンチモン、塩の生産が盛ん。

**東アジアの特徴（気候）**

- 東アジアの地理的範囲はモンスーン（季節風）型の気候に属し、夏は高温多湿、冬は乾燥と寒さが特徴。
- 春夏秋冬の四季がある。

**東アジアの特徴（文化や地域）**

- 東アジアは、中国文明を中心に広がった文化圏でありながら、国ごとに個性豊かな発展を遂げた地域。
- 東アジアには、中国・日本・韓国・北朝鮮・モンゴル・台湾の6つの国と地域が含まれる。
- それぞれ独自の文化や歴史を持っています。

## 東アジアの鉱産資源の分布図

社会変化が早い国として取り上げられている中国。季節風から乾燥気候に変化し続けられた。夏は高温多湿、冬は乾燥と寒さが特徴。夏は高温多湿、冬は乾燥と寒さが特徴。夏は高温多湿、冬は乾燥と寒さが特徴。

日本の特徴

山岳が多く、地形が複雑で、山岳地帯が広がる。山岳地帯が広がる。山岳地帯が広がる。

韓国は朝鮮半島の南部に位置し、山地が多く、四季がはっきりして、避暑地が豊富にある。

工 第4次の活動を通じた生徒の変容について

(ア) グループでの変容

資料3は、班での情報共有を行うワークシートB（別添2）の記述である。この班では、地域のイメージは身近な「東アジア」ということもあり、事前事後で変化はない。しかし、学習後の活動では、新たな視点で地域の特徴を考察しようとしていることが分かる（資料3 網掛け）。

【資料3 ワークシート(B)】

**班【 A 】 地域名【 東アジア 】**

班で出た話題、内容を簡単に良いのでメモしましょう。

---

～ Before はじまりの活動～

(1) その地域のイメージは？

- 四季がある、教育指数が高い。
- 山が多い
- 山岳地帯

(2) 地域で調べてみたいことは？

- 教育方針
- 観光客の増えの理由
- 農作
- 人口

(4) 国の紹介

国名	どんな国
韓国	山が多い、山岳地帯文化
中国	多岐にわたる。ルールは絶対
モンゴル	山が多い、夏はとて暑しい
日本	自然の中にも山が多い

～ After 学習後の活動～

(1) その地域のイメージは？

- 四季がはっきりしている。
- 暑い
- 山岳地帯

(2) 地域で調べてみたいことは？ 担当国で調べてみたいことは？

- 四季の変化
- 地形、産業、歴史(韓国)
- 地形、産業(日本)
- 歴史、言語(中国)

～ After 各レポートを持ち寄って～

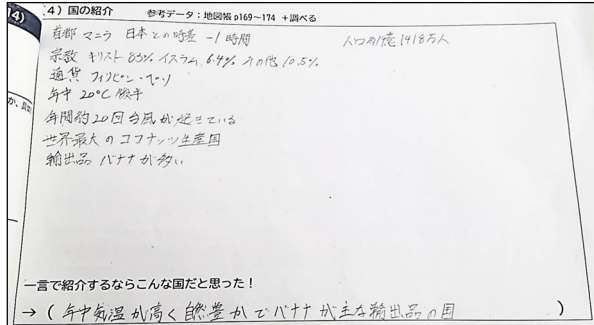
(3) この地域全体の特徴をまとめたとき、何を採り上げる？

- 東アジア→中国文明中心に文化が広がった。
- 鉱産資源(石炭、鉄鉱石、マンガン、水銀、塩等が盛ん)
- 四季の変化(モンスーン型の気候が盛ん)
- 宗教や文化の違い(基督教的な文化と仏教的な文化の違い)

### (イ) 個人での変容

生徒①は、フィリピンについて調べた。資料4-1の事前レポートでは地図帳の情報を並べたような内容にとどまっている。事後レポート(資料4-2)では、産業(農業)を軸に歴史とのつながりや現在の社会課題とのつながりをまとめることで、その国を見つめる地理的な見方を広げたことを見取ることができる。

#### 【資料4-1 生徒①:フィリピン】

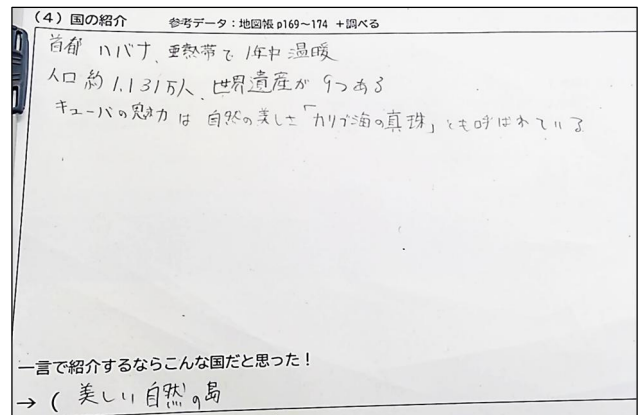


#### 【資料4-2】

<p><b>フィリピンの1人あたりのGDP推移のグラフ</b></p> <p>産業</p> <p>フィリピンは主に農業に依存している国です。3,000万ヘクタールの土地面積の約3分の1が農地に分類されています。農業は国のGDP(国内総生産)に約20%貢献しています。</p> <p>主な農産物はサトウキビ、ココナッツ、米、トウモロコシ、バナナ、パイナップル、マンゴー</p>	<p><b>歴史による農業の変化</b></p> <p>バナナの写真</p> <p>スペイン統治時代、スペイン人入植者の大土地所有者によるアジェンダ農場制度のもと、多くの小作農家が低賃金での労働を強いられました。そこから19世紀にかけて米国系多国籍企業の進出によりプランテーション農業が主流になりました。</p>	<p><b>フィリピンの最終学歴の割合のグラフ</b></p> <p>歴史がもたらした弊害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フィリピンは、土地を持たない農家が多く、農業収益から一定割合を地主に支払う形で農業を継続しています。</li> <li>フィリピンの人々は、先祖代々耕してきた畑を引き継いで農業を行っており、そのため先祖代々十分な教育を受けることなく与えられた農地で与えられた仕事をしてきました。そのため、現在も対象地区の35%が小学校卒業もしくは中退という事態を引き起こしています。</li> </ul>
---	--	---

生徒②は、キューバについて調べた。生徒②はキューバという国を知らないところからスタートし、調べても自身の価値観に響くポイントを見つけられず、作業に詰まっていた。結果、資料5-1の事前レポートでは十分な分量を書くことができなかった。そこで、アメリカとの関係や大陸との位置関係のヒントを与え、資料5-2の事後レポートでは言語と歴史を関連させてまとめ、アメリカとの地理的な位置関係の視点も持つことができた。

#### 【資料5-1 生徒②:キューバ】



#### 【資料5-2 生徒②:キューバ】

<p><b>キューバの言語</b></p> <p>キューバの公用語はスペイン語。しかし、キューバは地元の文化や歴史的条件の影響を受けて形成された多くの言葉、音声、および文法の特徴がある。</p> <p>アメリカ本土と近いいため、英語でも通じる</p> <p><b>キューバ周辺国の地図</b></p>	<p><b>言語の影響で歴史がどうなったか</b></p> <p>著作権者への配慮から掲載不可</p> <p>1492年、コロンブスがキューバに到着して、植民地にした。その時にスペイン語が定着した。 →外から押し付けられた言語</p> <p>16世紀-19世紀、アメリカから多くの奴隷が農業で働くために連れてきた。この時、アメリカの言語・リズム・文化がスペイン語と混ざり、独特な発音・リズムになった。 →キューバ自身の言葉へと変化した</p> <p>それからは、当時のフィデル・カストロ政権は「教育と識字」を国づくりの中心に置いた。1961年の全国識字キャンペーンによって国民がスペイン語を学ぶようになった。このとき言語は、単に教育の道具ではなく、平等と社会主義の理念を広める手段になった。</p>	<p><b>アメリカとの関係</b></p> <p>自由の女神像の写真</p> <p>キューバはアメリカ本土と近いので、関係が良好だと思いますが、最近まで仲が悪かった</p> <p>アメリカとキューバは、冷戦時代の対立を背景に長らく外交関係を断絶していました。</p> <p>しかし、2015年にオバマ政権下で両国は国交回復を果たし、アメリカとキューバの関係は改善されました。この回復により、両国は経済面や文化面での交流が増え、歴史的な和解が進んだように見えました。</p>
--	---	---

